

図書館資料展示

<最初の外国人富士登山： オールコック『大君の都：幕末日本滞在記』>

ラザフォード・オールコック卿(Sir Rutherford Alcock 1809-1897)は、イギリスの初代駐日英国公使で、1859年(安政6年)に総領事兼外交代表として来日、3年後の1862年6月に一時帰国した翌年に『The Capital of the Tycoon: a narrative of a three years' residence in Japan』(※邦訳：『大君の都：幕末日本滞在記』岩波文庫)を著しました。表題の「大君」tycoonとは、徳川将軍のことで、幕末に用いられた称号です。

ペリーの来航に続く安政年間には、地震・津波、コレラ流行、井伊大老の暗殺、尊王攘夷派の浪士による外国人襲撃などが頻発する騒然とした世相でした。オールコックは日英修好通商条約の批准など多事多難な公務に従事するかたわら、外国人として初めて富士山に登頂し、函館、長崎～江戸にも国内視察旅行を行い、江戸近郊にも度々出かけては日本の自然・風物にも目を向け、閉鎖的な幕府役人と異なる町や農村の人々との接触を楽しみました。

富士登山の帰路に宿泊した熱海温泉では、愛犬トビーを事故で失いましたが、宿の主人が僧侶を呼び皆で手厚く葬ってくれたことに感激し、「日本人は、支配者によって誤らせられ、敵意を持つようにそそのかされない時には、まことに親切な国民である。」と書いています。



また元外科医であったオールコックは画才にも恵まれ、『The Capital of Tycoon』中の多色刷りの挿絵の多くは彼自身によって描かれたものです。同書と挿絵、また関連図書からの抜き書きなどを展示いたします。展示した図書はロンドン版ですが、他にニューヨークで出版された版もあり、新座保存書庫の大久保文庫に所蔵されています。

立教大学図書館

<展示資料>

1. 『The Capital of the Tycoon: a narrative of a three years' residence in Japan』
by Sir Rutherford Alcock. 2 vols. London, Longman, 1863
2. 『大君の都—幕末日本滞在記』3巻 オールコック著 山口光朔訳 岩波文庫 1962
※ニューヨーク版の日本語訳
3. 『オールコックの江戸—初代英国公使が見た幕末日本』佐野真由子著 中公新書 2003
4. 『富士登山と熱海の硫黄温泉訪問：1860年日本内地の旅行記録』ラザフォード・オールコック著 山本秀峰編・訳 露蘭堂 発売元：ナウカ 2010

<挿絵から>



箱根湖



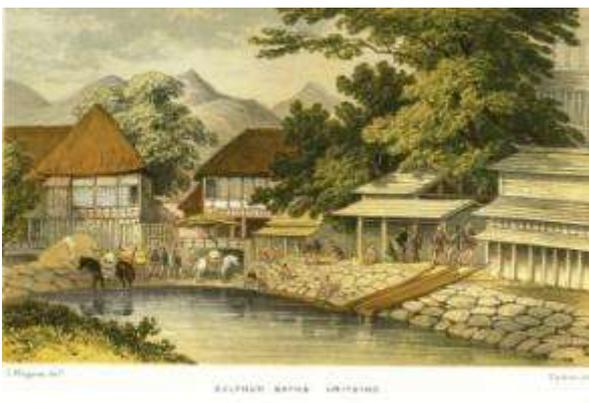
吉原から見た富士山



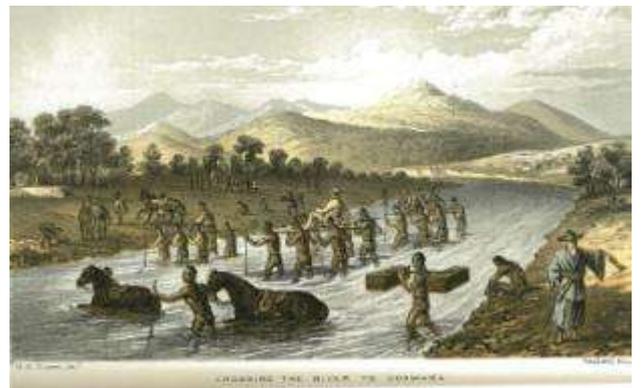
茶屋の給仕女



道端の休憩



嬉野の硫黄温泉



小田原への川越え



日本の乗物（ノリモン）



日本人の旅行の一例



漁からの帰り



幼児を背負う母親

<その他の参考文献>

1. 『日本の美術と工芸』 ラザフォード・オールコック著 井谷善恵訳 小学館 2003
2. 『英国外交官の見た幕末日本』 飯田鼎著 吉川弘文館 1995
3. 『描かれた幕末明治—イラストレイテッド・ロンドン ニュース 日本通信 1853-1902』 金井圓編訳 雄松堂 1986
4. 『幕末期の英国人：R・オールコック覚書』 増田毅著 有斐閣 1980



オールコックの肖像（『富士登山と熱海の硫黄温泉訪問』 2010 より）



『The Capital of the Tycoon: a narrative of a three years' residence in Japan』 London 版